



コペル通信 111号

発行日 2024.3.25



オリザグループの佐藤弥由さんです。秋保・里センターにて展示されていたつるし雛を、目を輝かせながら見つめています。つるし雛のモチーフは多々あり、それぞれ意味が込められています。ウサギのモチーフのように、来年度もコペルに明るいニュースが溢れますように！



発行：社会福祉法人つどいの家
つどいの家・コペル内 コペル通信編集担当
発行責任者：佐々木 健
〒984-0838 仙台市若林区上飯田 1-17-58
TEL：022-781-1571
FAX：022-781-1573
HP：<https://www.tsudoinoie.or.jp/koper/>→
Mail：koper@tsudoinoie.or.jp

成人を祝う会

快晴に恵まれた令和5年1月26日（金）、つどいの家・コペルにて4年ぶりとなる成人式が行なわれました。今年新成人を迎えたのはお二人。1階オリザグループの利用者さんと、2階ひろばグループの利用者さんです。スーツとドレスに身を包んだ新成人お二人を、利用者さんや職員、お世話になった先生方とお祝いしました。

式の前には、いつもと違う雰囲気緊張した面持ちでお父様お母様と一緒に過ごすお二人。入場の際の緊張を吹き飛ばすように歩く姿は自信に満ち溢れていました！

式典では、これまでの人生において関わった先生方や施設のスタッフ様から、お祝いの言葉や激励の言葉、なんとテーマソングを作って歌って下さる先生もいらっしゃいました。先生の懐かしい歌声を聞き笑顔が止まらない様子に、先生方も当時と変わらない面影を感じつつも、大人になったという成長を感じられたことでしょう。

新成人のお二人には、これまでお世話になった方への感謝の気持ちと、明るい未来への希望を胸に、これまで培ってきた経験で新しい道を切り拓き、未来への新たな一歩を踏み出してもらえたらと思います。

最後に、ご参加くださった先生方並びに新成人のお父様お母様、ご参加誠にありがとうございました！お二人のこれからの日々が幸多からんことを祈って、感謝の言葉とさせていただきます。

（記：勝浦）



災害派遣ボランティアに参加して

今回、私は令和6年能登半島地震の被災地へ行ってきました。東日本大震災で被災した経験から、募金以外にできることはないかと考えていたところ、以前から当法人と交流があった石川県にある社会福祉法人佛子園から人材派遣の依頼があり、人的支援として参加しました。

1月22日から二日間、金沢市にある^{シェア}Share金沢の災害本部で物資の受け取りや積み込み等を行いました。物資が置かれていた災害本部はフットサル場で、外の寒い風が入り込み、長時間過ごすには大変な環境だと感じました。物資には水や食料、割りばしやオムツなどがあり、賞味期限が切れた水は生活用水として活用するとのことでした。男性職員は被害が大きかった能登半島や輪島市方面に行っているため、女性職員が主となって作業を行い、重い荷物が多中で本部の一つひとつ確認を取りながら運び、積み込みを行っていました。一緒に作業を行い、物資の整理や運搬の役割も大変な作業だと感じました。特に印象に残っていることは、賞味期限間近の食料が大量にあり、送っていただいた方に返却する予定だということです。災害時には必要な時に必要な物が届きにくく、状況によって求められる物が変わっていくことを学びました。

今回は2日間のみ短い期間でしたが、また機会があれば支援させていただきたいと思います。また、一刻も早く復興することを心よりお祈り申し上げます。

(記：金田)



災害派遣ボランティアの様子



コペルでの募金活動の様子

続いてはにこりほっとの木です！

“にこりほっと”とは、利用者の新たな発見や気付き、職員の良い支援を共有し合う取り組みです。夕方に行う職員の打ち合わせで伝えたり、廊下の壁に掲示しているにこりほっとの木に付箋等で貼り付けたりすることで共有しています。打ち合わせでにこりほっとのエピソードがあげられると、「アハハ」と笑い声が起ることもあります！

次のページからにこりほっとの木と、各グループのにこりほっとなエピソードを掲載します。





センダードのにこいほっと



奈津子さんは楽しい関わりが大好きです。しかし、言葉で伝えることが難しいので、職員はいつも試行錯誤…。その時々で好きな歌やフレーズが違うので、それを職員が言い当てたときには、素敵な笑顔を見せてくれます。そんな笑顔が見たくて、私たちは奈津子さんの「今、好きなもの」を一生懸命探します。

沖野中学校の職業体験の学生さんとの出来事です。奈津子さんは、頬っぺたを指でつんつんされるのがマイブームの時がありました。何度も「やって♡」と言うように、職員の手を頬にもっていきます。毎回、要求する相手は決まっていますが、学生さんの隣に座ってもらったら、どんな反応をするのか…

いつもの職員でないとわかって、遠慮しているのか…座ったままの奈津子さん。職員が「奈津子さ～ん、お願いしてみたらどうですか？」と声を掛けると、学生さんの手を取り自分の頬へ。「びっ」という声とつんつん頬をつついてもらうと…もう満面の笑顔。その様子に学生さんも笑顔。周りのみんなも笑顔。とてもやさしい空間が広がりました。

学生さんとは「非言語コミュニケーション(言葉を用いないコミュニケーション)」について話をしていたので、それを体験してもらい、職員も嬉しくなりました。

学生さん、奈津子さんと周りの笑顔に「ニコリ」、言葉がなくても通じ合えた「ホッ」とした出来事でした。

(記：菊地)



オリザのにこいほっと

オリザが選ぶ今年度のベストオブにこり・ほっとは、調理活動です。

オリザでは今年度、たくさんの外出活動や、斬新な活動を実施してきましたが、特に印象に残っているのは調理活動です。

こちらはパンケーキと親子丼づくりの写真です。パンケーキの生地を混ぜたり、親子丼の材料を炒めたりしました。どちらもおいしそうなお匂いが部屋中に漂い、お腹が空いてきます。どの場面を切り取っても素敵な笑顔が見られました！

自分で作るものはとても美味しいですね！調理活動を通して、皆さんの楽しそうな笑顔や、新たにできる事の発見に繋がりました。今後も皆さんの好きなものを作って、たくさん美味しいものを食べられるといいなと感じる活動でした！

(記：三塚)



ブドリのにこいほっと

ブドリグループの車椅子利用者である安達さんは、テーブルと胸ベルトを外すと深く前屈して足元にあるものを拾うことができるので、自分で放り投げたものなど、自分で拾えるように支援していました。

「モルック」という室内ゲームをした際に木の棒を投げて並べた木の棒を倒す場面で、新人職員が「投げる棒を手持ったら倒せるのでは」と提案しました。渡してみると、手に持ったまま並べた棒を自分で倒すことができ、ゲームに主体的に参加できました（本来のルールではありませんが）。

しょうがいにより身体的に可動域の制限がある場合、レクリエーションなどの場面で職員が手伝って行うことがあります。スムーズに進行するため、或いはそれ自体を利用者本人が望んでいることもあります。が、「できないから」「難しいから」ということで安易な手段に陥らないように、「できないことでも何らかのアプローチで主体的に参加できる方法を模索する」ことを忘れてはいけないと感じた出来事でした。

（記：守）



ひろぼのにこいほっと

2024年1月24日にあったYさんの一件です。同じグループの利用者である一真さんのお母様からノートへの記載がありました。「ほっこりしたこと。先日、送迎車が家の前に到着した瞬間、Yさんが車から降り隣の家に向かって走って向かっていきました。どうしたのかと見守っていると、強風で倒れていたであろう自転車を起こしている姿が見られました！（一部省略）」との記載。その出来事を私は目の前で見る事が出来なかったのですが、ノート越しでも伝わるYさんの優しさに驚愕しました。

Yさんは、夏から秋にかけて、若林福祉センターまで自転車でパンの納品を行っています。自前の手袋やヘルメット、ゴーグルを忘れず装着して自転車を漕いでいます。それもあってか自転車には思い入れが人一倍強く、倒れている自転車を見て我慢出来なかったのだと思います。

そんなYさんの一件を記載していただいた一真さんのお母様ありがとうございました。そして私は、今後利用者の方々の心優しい一面により目を向けていきたいと考えました。

（記：滑澤）

続・おかわり管理者の もう一杯



つどいの家コペル
管理者 佐々木 健

小岩憲子さん作

2024年1月1日（月）16:10に発生しました能登半島地震において、被災された皆さま、心よりお見舞い申し上げます。速やかな復旧・復興をお祈り申し上げます。

この度の震災に伴い、石川県金沢市を中心に活動している佛子園へ、社会福祉法人つどいの家からも職員派遣を行いました。職員派遣を行った経緯としましては、震災後13年が経過しようとしております東日本大震災（2011年3月11日14:46）に遡ります。佛子園とは、震災以前からも様々な面で交流をしておりましたが、つどいの家が震災で大きな被害を受けた際、いち早く利用者へのフットマッサージ支援や2週間に亘る職員派遣の支援を頂きました。震災当時の被災状況や全国からの多大なる支援を記録し、一冊の本にまとめた「つながる力」（発行／フェミックス）には、こう記載しています。「万が一、石川県で同じことが起ったら、今度は私たちがいきますと言われ感動した」と復興支援に入ってくれた佛子園職員の記事が残されています。13年が経過して、当時の状況を知るつどいの家職員も3分の1程度になりましたが、今こそ当時の恩返しにと、物資輸送や職員派遣を検討しました。

当時の我々も強く感じていましたが、フェーズ（段階・局面）によって状況が様々変化するため、必要な物資もめまぐるしく変化しました。報道等で、多くの道路が寸断され、個人のボランティアや支援を控えるよう報道される中、我々はどんなことができるか？模索していました。1週間が経過した頃、佛子園ホームページやSNSを通じて、支援物資の要請があったことから体制を整えて物資輸送を計画しました。いざ、物資を準備する日（1月15日月曜日）に、佛子園のホームページを確認したところ、支援物資の要請は終了しており、人道支援へ切り替えると更新（1月13日付）されていました。法人としても物資支援から職員派遣に支援内容を変更し、支援計画の組み立てを行いました。その後、5名の有志が派遣に志願して、2週間に亘り支援を行いました。私も2日間という短い期間ではありますが、金沢市内にあります、Share 金沢（物資管理等の拠点）にて物資の搬入・管理・輸送等の支援に参加しました。これからも継続して支援していきたいと思っています。

東日本大震災から13年が経過します。当時、全国から多大なる支援や援助を頂き、復旧・復興に向け希望を持つことができました。これから全国の事業所へ恩返しができるよう、震災経験を復興支援に協力していきたいと思えます。（記：佐々木）

～編集後記～

今回のコペル通信では各グループの“にこりほっと”を紹介しました。利用者の方々の素敵な一面や、共に過ごす楽しいひと時を大切にしていきたいと改めて感じました。

来年度も笑顔溢れる毎日を過ごしていきましょう！！

（記：江渡）